

# 中信高校山岳部かわらばん

編集責任者 大西 浩

大町高等学校

## 「2016 北信越地区山スキー研修会 in 小谷」に参加して

2016(うるう年).2.29 広島県 西部伸也先生より寄稿いただきました

2011年8月、最後の総監督隊となったインターハイ青森大会。その後も「委員長隊」と名前を変えて継続されてはいるものの、やはり参加のしやすさは違っていたようで、とても充実した総監督隊だった。とりわけ中国地区は5県の「フルエントリー」。そして地区を超えての交流も実に有意義だった。そのなかで、岩手・小野寺先生、宮城・伊藤先生から聞いた東北地区研修会、石川・根石先生から聞いた北信越地区研修会の話には大いに刺激され、そしてその刺激が、今年5回目を数えた西地区雪山研修会へとつながったのだったが、その元となった東北地区研修会や北信越研修会にもいつかは参加したいものだと思っていた。過去にぜひ参加したい企画もあった。青森大会の翌年になる2012年の四ッ岳・輝山(てらしやま)。けれども広島県の雪山大会と日程が重なっていて参加は叶わなかった。あまりに魅力的なコースに思えたので、北信越研修会のちょうど1ヶ月後に鳥取・富永先生、島根・折坂先生を誘って同じコースを辿りもしたほどだ。その後もうまく都合がつかず、何回となく参加している岡山・田中初四郎先生を羨ましくも思っていた。

その田中先生からお誘いがあった。期日は2月20~21日。出発は19日金曜日の夕方。今回は参加を決意。まずは岡山県浅口市の田中先生宅まで、車を走らせ、そこからは田中先生の車を交代で運転。今回は、鳥取・富永先生も合流することになる。合流するのは山陽道の龍野西SA。広島市南区の自宅を17時20分に出発して、田中先生宅に19時10分に到着。ログハウス風の小部屋でしばらく休憩させてもらい、田中先生宅を20時前に出発して、龍野西SAに21時過ぎ到着。富永先生と合流して、21時20分出発。糸魚川ICを降りたのが3時少し前、山陽道玉島ICからの高速料金は深夜料金で8,540円であった。そこから長野県小谷(おたり)村に向けて国道148号線を南下。ちょうど30分で「道の駅小谷」に到着した(3時半少し前)。

北信越の先生たちとの待ち合わせは、道の駅から車で数分の「サンティン小谷」に8時であったため、道の駅にて車の中で3時間ばかり仮眠。6時半頃起床して、近くのコンビニまで行動食の調達に出かけようとしていると、新潟・新保先生がやって来た。買い物を済ませ、集結地のサンティン小谷に7時半頃到着すると、長野・大西浩先生&松田先生、石川・北川先生&村本先生もやって来た。



この日の行動予定は小谷温泉の背後にある大渚山(おおなぎやま 1566m)。取り付きは小谷温泉の少し手前、大草連(おおぞうれん 800m付近)からであった。取り付き点の駐車スペースがあまり広くはないので、乗り合わせも考えたが、大丈夫だろうということで、銘々の車、計5台で出発。県道から別れて大草連へ上がる道は幅の狭い急坂の道であるが、路上に雪は

あまりなく、すんなりと上がった。

登山支度を整え、8時30分過ぎに行動開始。最初は林道をたどり、970mあたりより山の斜面に取り付く。途中2回の小休憩、計25分を挟んで、11時過ぎ山頂部に到着。休憩を含めてちょうど2時間半だった。標高差760m程であるから、割と順調な登高だったと言えよう。ただ、頂上部に出る手前少し前からは雪がやや固くなり、クトー（スキーアイゼン）がないと少し苦勞した。

8名全員が頂上部に着いて、さてこれからどう滑るか一相談。登ってきた方角とは反対側の北斜面の雪はパウダーのようで誘惑もされたが、午後から天気は下り坂という予報であったため素直に往路を戻ることにして、まずは200mほど離れた避難小屋まで行ってみることにした。例年この時期は積雪に隠れてしまっているらしい避難小屋は、今年はやはり雪がかなり少ないのか、半分以上姿を現している。それでも雪のためか、入口の扉は開かず、中での休憩は断念。早々に皆、滑降準備に取り掛かる。天気予報通り、それまでの曇り空から悪天に変わってきたが、山頂一帯では雪であるのがまだ救いだ。

11時30分、いよいよ滑降開始。まずは山頂の平坦部でシールを外したスキーを少々走らせてみるが、どうも雪の状態が手強そうだ。気温が低めで表面の雪はクラスト、ただしその下層はまだ柔らかい雪のままで、いわゆるモナカ雪だ。バランスを取るのが難しく、少ない積雪でブッシュもあまり隠れてはいないため、ターンをするのが至難。しばらくは斜滑降とキックターンを織り交ぜて降っていく。1400m位まで降りてきて、表面のクラストもようやくなくなりかけ、なんとかターンが可能になってくる。以後、ターンも気持ちよく決まるようになり、みんな樹林の中を思い思いのシュプールを描きつつ楽しく下り、林道に降り立つ。あとは林道をほぼ一直線に、時にショートカットを交えつつ、車を止めた出発点に13時5分過ぎ帰着。途中2回・計30分弱の小休憩を含めて、山頂より1時間半強の滑降であった。登りの所要時間に比べて、スキー滑降にしてはかなり時間がかかっているが（通常なら40～50分位だろう）、やはり上部の悪雪に手こずったようだ。上部の悪雪で消耗した分、最後の林道では大腿四頭筋が少々こわばりもしたが、ともあれ全員無事にスキー滑降終了。滑降の楽しさという点では十分ではなかったかもしれないが、悪雪への対処という点では有意義な研修であった。

天気予報通り、標高800m程の山麓では雪ではなく雨となっていた。したがって午後は早めにこの日の宿（岩岳の「白馬エスキーナ」）に入ってゆっくりとくつろぎたいところだが、まだチェックインの時間とはならないため、いったん宿の駐車場に余分の車を置いたのち、8人が2台の車に乗り合わせ、北川先生・大西浩先生の乗った車の先導で、白馬の登山&スキー関連のショップをハシゴする。山スキーのラッピー、好日山荘、山岳競技スキーのダイナフィットと。途中パタゴニアにも寄ろうとしたが、ここは駐車場が満杯だった。16時頃、宿にチェックインしてまずは一風呂浴びる。そして18時から



の夕食までのひと時、部屋の一つに集まり、しばし歓談。その際、最近私が自費出版した『中国山地のバックカントリースキーと高校登山部顧問の30年』（A4版120ページ）を皆さんに紹介し、「代金」やカンパをありがたく頂いた。

遅れて合流となった石川・根石先生&鴻埜先生、長野・大西英樹先生も夕食前に到着し、全員で食堂へ。そしてその後にはまた部屋のほうで歓談。なかなか楽しかった。